

# インターネット犯罪・事件・訴訟の概要

牧野 二郎 ● 弁護士

## 経済活動に伴うオンライン犯罪が急増中 深刻なWinnyによる個人情報漏えい

### ■ フィッシング詐欺の巧妙化

2004年のオンライン犯罪の中で、特筆すべきものがフィッシング詐欺である。有名なウェブサイトとほとんど同じ内容の偽サイトを作り、そこに顧客を誘導して、ID、パスワードをはじめとした重要な個人情報を収集する仕組みだが、このサイトへ誘導するために、電子メールが利用される。この電子メールアドレスが、会員や、顧客のもとに的確に届くこと自体、偽装された事業者の保有する電子メールアドレスが漏れていることを推測させる。顧客らは、他人が知らないはずの取引に仮想された勧誘を、いとも簡単に信用してしまい、指示されるままに個人情報を入れてしまう。

わが国のフィッシング詐欺は米国などから遅れて発生し、国内で実害が出始めたことから警察が緊急の警告を出したが、その後も急増は止まらなかった。とくに、UFJ銀行をかたる偽装サイトがウルグアイ、韓国など多くの国のサイトを利用して多発的に行われたこと、さらに誘導するサイトのURL表示が「https」で始まるように偽装表示され、誘導先があたかもSSLによる安全性保護を行っているかのように装うなど、手口が巧妙になっている点が特徴的である。利用者としては、サイトの証明書の確認を丹念に行い、個人情報を打ち込む前に、表示されているアドレスを再確認するなど、自衛策をとることが重要となる。

### ■ オークション詐欺が多発

さらにオンラインオークションでの詐欺行為も多発した。経済事犯の本格的増加が指摘されている。情報提供型の利用から経済活動への移行が進み、オークションサイトでの詐欺行為が多発している。身元確認が不十分で出品に関する厳格なチェックが困難であるなど、オークションに内在する困難性を逆手にとる利用者が急増し、警戒心の弱い人が被害者となるケースが多く、注意が必要になっている。

### ■ 対策浸透でウイルス被害は抑制

新しいウイルスが次々と作られ、流されている。その数も大きく増加しているのだが、幸いなことに被害はしっかりと抑えられている。ウイルスソフトがいまや必須のものとなっており、その認識も定着した感がある。ウイルス対策ソフトが

あれば、ウイルス感染前に発見して駆除できるため、被害が生じることはない。しかし、ソフトの有効期限切れや、パターンファイルの更新がなされていないケースなどで感染した事例が報告されている。利用しているすべてのパソコンに対して、1台も漏らすことなく導入し、常時監視を行うことが必要となる。今後は自宅パソコンや自作パソコンの感染、企業へ持ち込んだ個人所有パソコンによる内部からの感染、スパイウェアなどの寄生に対しても注意が必要となる。

### ■ 個人情報漏えいはデータレベルが多数に

個人情報の漏洩事故が後を絶たない。注意喚起がなされているにもかかわらず、取り扱いの不注意などで重要情報が漏えいする事案が多い。

とくに注意を喚起する必要があるのが、自宅へ持ち帰った重要な個人情報が、自宅のパソコンで利用していたWinnyを介して流失する事件が起きていることである。医師の診療記録が漏えいしたほか、2005年に入ってから元国税局職員プライベートな写真集など大量の情報が流出して問題となった。Winnyによる流出の場合、重要情報を格納しただけで自動的にファイル交換を始めてしまうため、本人が意識しない場合が多いという。家族や同居する人がWinnyを利用している場合も想定される。個人情報を取り扱う事業者は、事業所内の事業用のパソコン以外での作業を制限するなど、さらに徹底した個人情報保護対策を実施する必要がある。

これまでの漏えいは、顧客管理サーバーからの盗み出しや紙レベルでの漏えいが多数報告されていたが、最近ではデータレベルでの漏えいが多数を占めてきている。今後の個人情報保護対策はデジタル化した個人情報に対する保管・管理の徹底が求められることになる。

### ■ 情報力の必要性

今後は、企業情報、機密情報の漏えい防止などが強く求められ、情報犯罪への対応が急務となる。すでに不正競争防止法の改正が提案されており、企業退職者からの情報漏えいなども規制対象とする動きもある。企業の情報は、顧客から預かり保管するものが多い。企業はこうした預かっている情報を安全確実に保護する対策を徹底しなければならない。



## [インターネット白書 ARCHIVES] ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2012年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

<http://IWParchives.jp/>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、データ、URL、名称など)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真・図の作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレスR&D)などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D(初期は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めました。すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレス R&D

✉ [iwp-info@impress.co.jp](mailto:iwp-info@impress.co.jp)